報道された広大

#原医研　全面改組盛る―新年度予算案広島大関係分、国際協力科新設も（中国、2・23）
#でるた＝広島に文化の拠点づくりを　広島大学長　原田康夫（中国㈮、2・24）
#念入りに会場準備、きょう国公立大二次試験　広大など（朝日、毎日、産経、中国、2・25）
#附属病院長に長坂氏、広大歯学部（中国、朝日、読売、2・25）
#学生アパート二千室〝空き家〟、広島大移転先新築ラッシュ―東広島市、奨励金〝裏目〟に（読売、2・28）
#中国論壇＝これからの科学技術振興―不況…行政の支援必要　工学部　吉田典可教授（中国、2・28）
#緊張し最後の難関に―広島大と県立大二次試験、六九〇〇人が挑む（山陽、産経、中国、朝日、毎日、読売、2・26）
#大久野島の毒ガス究明　西本・広大名誉教授を悼む―動員学徒救済にも理解、治療と研究、親切に指導（朝日、2・27）
#教育のページ＝異文化・受験体制…課題の中で模索―総社の日系人にアンケート「親子の対話減った」悩める実態浮き彫り、広大大学院大月さん（中国、2・27）
#でるた＝損して得とれ　広島大学工学部長　佐々木和夫（中国㈮、3・1）
#広大本部の古代石棺、東広島キャンパスへ（中国、3・5）
#平和朝市、交流の味―東区で1年ぶり復活、広島大大学院留学生張文鋼さんら（中国、3・7）
#データファイル＝下宿学生の生活苦しく―広島大学消費生活協同組合生活実態調査（中国、3・6）
#ひとこと＝広島大大学院2年　ローリー・ハビエルさん（中国、3・8）
#学生アパート建て過ぎた、広大移転進む東広島市内―不足から一転　二千室も過剰、入居者確保へ争奪戦（中国、3・8）
#広大広報誌を刷新！―読まれる紙面で〝大学サバイバル〟（産経、3・8）
#戦国末期「境目」の実態、吉備地方―広島大の岸田教授が岡家（萩）の古文書解読　地侍の団結で自立、双方の大名から切り崩し受ける（中国、3・9）
#広島大二四四一人に春―歓声、胴上げ…相次ぎ合格発表、中国地方国公立大（中国、3・10）
#余剰アパート、学生争奪戦スタート―東広島、不動産協と大学生協（読売、3・11）
#論壇＝老人保健福祉計画の見直しを　広島大学教授　地井昭夫さん（朝日、3・11）
#でるた＝第二の故郷　大学院社会科学研究科　王　世和さん（中国㈮、3・15）
#一七〇七人が受験、広島大で後期試験（毎日、中国、3・16）
#ローカルあらかると＝日系留学生の熱い願い描く―19日、NHK　広大留学生チエ・ヒロセさん（中国㈮、3・17）
#紙上ゼミナール＝疾走するモザイク社会③　マレーシア　高い経済成長、日系企業の進出が支え　広島大総合科学部助教授　松岡俊二さん（中国㈮、3・17）
#アジア研究の拠点、広大大学院新設研究科（中国、朝日、毎日、読売、産経、3・17）
#文化＝日清戦争開戦百年と広島―平和への姿勢を鮮明にする好機、広島大総合科学部助教授水島朝穂さん（中国、3・21）

編集後記

誌面の刷新とコンピュータ編集に切り替えてから一年間。やっと二十五期最終号をお届けできました。表紙担当の若元委員、委員長の国外出張中に職務代行をお願いした辰巳副委員長をはじめ、委員の皆さん、企画調査課のスタッフの皆さん、ご苦労さまでした。

後半は、刊行スケジュールが詰まっていて苦しかったのですが、広報紙コンクールの最優秀賞受賞のせいで他大学から見学者が相次いだり、渡辺係長が大学広報誌づくりの講師としてU大学へ招かれたりと、それなりに充実した一年でした。これで二十六期の辰巳委員長へバトンタッチいたします。

映画「マルタの鷹」の舞台になったサンフランシスコのレストラン「ジョンのグリル」で、恩師夫妻と五年ぶりに再会した。話はひとしきりはずみ、やがて子供の話に移った。

勉強のよくできた長女は、東部の名門大学を卒業後、社会適応がうまくいかず、職を転々としたあげく作家志望の青年と結婚し、パン職人になり、今はメイン州にいるという。最近、停年後の夏の暮らしのために農場を購入し、パン工場を併設して長女夫婦に任せているとのこと。

ハーバード卒の父親に反発し、勉強のできなかった次女は看護婦になり、ビジネスマンと結婚したが、やがて離婚。同じく離婚歴のある精神科の看護士と知り合い、一念発起して法律学校に学び、もうすぐ弁護士になるという。「医師を食い物にする弁護士が多いが、私は、正しい医師のために働く弁護士になりたい」、そう語る次女の顔に、永かった父と娘の対立の氷解をみた。

B家の春を喜ぶと同時に、学歴とは何だろうと考えた。

（第25期広報委員会委員長　難波紘二）